

貉の妖怪物語 第零回

発端の章

作名無し貉

春

わしらの住んでた山に、
一本の古い山桜があった
普段は目立たん木やったが、
花が咲くとそこだけ世界が違った
わしは、その木の元で、
桜の花を見上げて考えとった
わしはまだ若い雌で、
秋になれば結ばれるはずの雄に、
死なれたばかりやった
人間に殺られた
遺体を弔うこともできんかった
わしは桜を見上げながら、
生きることはどういうことが、
死ぬとはどういうことが、
そんなことを考えとった

まだ、わしが妖怪になる前の
数少ない記憶の一つや

もう何百年も前の話や

初出 05MAR2007【百鬼】妖怪達の集うスレ【夜行】スレ